

ヒアリング調査報告書

1 保護者・利用者対象調査

対象	対象団体・対象施設	ヒアリング実施日	人数
ファミリー学級参加者	—	アンケートにて実施	35人
子育てサークル・ 子育て支援団体の活動参加者	ぞうさん文庫	11月24日(金)	1人
	ちろりん村	12月7日(木)	5人
子育てひろば利用者	北原児童館乳幼児事業	11月16日(木)	4人
	のどか広場	12月4日(月)	5人
	地域子育て支援センター なかまち	12月19日(火)	4人
学童クラブ利用保護者	—	アンケートにて実施	42人
西東京市立小中学校PTA・保 護者の会の保護者	—	アンケートにて実施	12人
合計			108人

ヒアリング対象者の立場

お母さん	お父さん	祖母	不明	合計
75人	19人	1人	13人	108人

①教育・保育事業の利用状況（家庭での保育か否か）

- ・現在、働いている人はいなかったため保育園等を定期的に利用している人はいなかった。
一時預かり保育や子育てひろば、児童館を利用している人はいた。
- ・幼稚園を利用している人が1人いた。
- ・ファミリー・サポート・センターについて、条件が厳しく利用しづらいといった意見が挙がった。

②今後の就労状況・予定（希望）

- ・ファミリー学級参加者は、仕事をしている人がほとんどで、仕事をしていない人もいつか仕事をしたいという意見が多かった。
- ・保育園に入り次第、時短又はパートタイムで働きたいという人が多かった。
- ・働く予定のない人もいた。

(1)共通質問

①子育てについて今知りたいこと、不安なこと

- ・ファミリー学級参加者は、無事生まれるかどうか、出産時や産後の痛みや体調、子育て全般、金銭面に不安を抱えている人が多かった。
- ・乳幼児の保護者は、保育園に入園できるか不安、来春小学校入学の子どもが一人で登校することが心配、小学校や学童の情報も知りたい等、入園・入学後に関する情報を知りたい人が多かった。
- ・同年齢の子どもとの発達差に気付くと不安になることがある、乳児検診が個別になったため他の子どもの発達状況を見る機会がなく心配、病気やケガの際にどの病院に連れて行けばよいかわからない等、発達や病気に関する不安の声も多かった。
- ・その他、家の周りの車の往来が激しく、交通事故が心配という安全面に対する不安や、お金がかかるといった金銭面での不安の声が上がった。

②子育てについて期待すること

- ・ファミリー学級参加者は、生まれること（会えること）や家族が増えること、子どもの成長がみられることが楽しみと回答する人が多かった。
- ・乳幼児の保護者は、子どもの成長を楽しみにしている人が多かった。

③あるとうれしい子育て支援のサービス

n = 66

お金・各種サービスの無償化	18.2%
遊び場の拡充	16.7%
保育施設の充実	10.6%
一時預かり	6.1%
子育ての情報共有	4.5%
ママ・パパとの交流促進	3.0%
先輩ママ・パパ（祖父母）との交流促進	1.5%
保護者向けイベント	1.5%
学校への補助員の配置	1.5%
適切な支援サービスへの連携	1.5%
児童館への見守り補助員の配置	1.5%
子育て支援センターの閉館時間延長	1.5%
相談支援	1.5%
特になし	7.6%

- ・ファミリー学級参加者からは、金銭的な支援や保育施設を充実してほしいという意見が多かった。
- ・乳幼児の保護者からは、遊び場を充実してほしいという声が多数だった。また、予約なしでふらっと入れる場所がほしい、子ども連れでも入りやすいお店のリストが欲しい等、利便性も求める意見が複数挙がった。その他、児童館に見守り担当の職員を配置してほしいといった意見も挙がった。
- ・小中学生の保護者からは、子どもがのびのび遊べるような児童館の拡充や校庭開放等の遊び場の充実、子ども関連のサービスの無償化や支援金等を求める声が多数挙がった。

④西東京市への希望・要望

- ・ファミリー学級参加者からは、保育園に入りやすくしてほしい、育児にかかる費用の補助を充実させてほしい等の意見が多かった。
- ・乳幼児の保護者からは、市内公園の禁煙、3歳児以上の幼児向け施設を充実させてほしい、公園をなくさないでほしい、広い遊び場を確保してほしい、小さい子が遊べる公園・遊具を整備してほしい等、子どもの遊び場の拡充に関する意見が多かった。
- ・子育てに関する情報は一本化してほしい、西東京市のアプリを充実させてほしい等、情報発信の方法や充実に対する意見も挙がった。
- ・その他、産後ケアの延長、保育園の定員増、保育園や幼稚園の入園手続き方法の追加（WEB対応してほしい）、公立保育園と私立保育園の格差是正、保育園の設備改修、ベビーシッターが無料で利用できるサービス（区で実施）の導入等の意見が挙がった。

(2)対象者別質問

①ファミリー学級参加者

ア 就労の予定・希望の有無を問わず、就労にあたっての障壁

- ・保育園に入れるかどうか不安、勤務時間が長い、職場が遠い、子どもが体調不良になった際の対応、育児と家事の両立、休みづらい等の意見が挙がった。

イ 困りごとや相談をしたい時の相談先

n = 35

パートナー	39.5%
父母・義父母	21.0%
親族	14.8%
友人	21.0%
市役所	2.5%
地域の子育て支援	1.2%

ウ 西東京市子育て応援アプリ「いこいこ」に関する認知・利用状況

n = 35

認知状況	知っている	60.0%
	知らない	40.0%
利用状況	頻繁に使っている（週1回以上）	0.0%
	たまに使っている（月1,2回程度）	2.9%
	使ったことはある	14.3%
	使ったことがない	82.9%

②子育てサークル・支援団体の活動参加者、子育てひろばの利用者

ア 利用目的（複数回答）・利用頻度

n = 19

子どもが遊ぶため	57.9%
家以外のどこかで親子で過ごしたかったため	47.4%
子育てに関する情報収集をするため	31.6%
先輩ママ・パパ（祖父母）と交流をするため	15.8%
子育てに関する相談をするため	15.8%
同年代の子どもとの交流をするため	5.3%
在宅勤務中の父親の邪魔をしないため	5.3%
イベント参加のため	5.3%

- ・子どもが遊ぶため、家以外のどこかで親子で過ごしたかったためが最も多かった。
- ・毎日利用している方や週1～3回利用している方等頻度は様々だが、定期的に利用している人が多かった。

イ 活動を知ったきっかけ（複数回答）

n = 19

西東京市のホームページ	47.4%
市役所の事業（健康課、全戸訪問、ファミリー学級等）	21.1%
口コミ	15.8%
子育てハンドブック	10.5%
サークル・団体のチラシ、リーフレット	10.5%
市内の掲示板	5.3%
保育園からの紹介	5.3%

- ・西東京市のホームページで知る人が多く、ホームページ上での見やすい情報発信等は重要であることがわかる。
- ・市役所の何らかの事業で紹介され、利用し、その後 継続的に利用している人も多い。

ウ 参加した感想

n = 17

とても良かった	88.2%
まあまあ良かった	11.8%
どちらとも言えない、ふつう	0.0%
期待したほどではなかった	0.0%

- ・利用者の満足度はとても高い。
- ・広くて安全な環境で遊べるのが良い、月齢の近い子どもと遊ぶことができて発育の参考にもなる、親子二人きりにならずに気分転換にもなる、自分の悩み相談ができて気持ちが楽になった等の意見が挙がった。

エ 子育てサークルや団体の活動以外で、地域の方と子どもを通じた交流や活動で知り合った方との付き合いの状況

- ・地域子育て支援センターや市主催のプール教室、公民館の子育て支援サークル、兄や姉の小学校の保護者、保育付き市民講座等で子どもを通じた交流がある。
- ・交流の方法は様々だが、地域の子育てに関する活動に参加している保護者は同年齢の子どもやその保護者との交流の機会を持つことができている。

③子育てサークル・子育て支援団体の活動参加者

リーダーや会員となって、子育てに関する団体等を運営する立場になる意向

- ・子どもが居ない時間帯（学校や幼稚園に行っている間）に手芸をしながら交流をするサークルなどを作りたいという意見も挙がったが、意向はないとの意見も挙がった。

④学童クラブ利用保護者、小中学校PTA・保護者の会の保護者

ア 子育てで感じること

n = 53

	とても感じる	どちらでもない	あまり感じない
子どもとの生活が楽しい	90.6%	7.5%	1.9%
子どもの成長が楽しみ	98.1%	1.9%	0.0%
子どもの個性や意見を尊重できている	49.1%	45.3%	5.7%
子育てに不安になることがある	26.4%	54.7%	18.9%
自分の好きなことをする時間がある	13.2%	41.5%	45.3%
子育てにかかる経済的な負担を感じる	59.6%	28.8%	11.5%
一人ぼっちで子育てをしている感じがする	7.5%	32.1%	60.4%
子育てと仕事や家庭のことがうまく両立できている	20.8%	52.8%	26.4%
子どもを通じて地域とつながりが感じられる	37.7%	47.2%	15.1%
子育てを通して自分自身が成長している	69.8%	26.4%	3.8%

- ・子どもとの生活が楽しい、子どもの成長が楽しみなどの前向きな回答が多かったが、子育てにかかる経済的な負担を感じることや、自分の好きなことをする時間があまりないとの回答も多かった。
- ・子どもの個性や意見を尊重できているか、子育てに不安になることがあるか、子育てと仕事や家庭のことがうまく両立できている等は「どちらでもない」の意見が多かった。感じるか感じないかは状況によって違い、どちらかを選べない人が多いのではないかと推察される。

イ 子育てで、「難しい」「困った」と感じた時の相談先

- ・家族（夫/妻、子どもの祖父母）や友人、また かかりつけの病院の先生や療育施設の先生等が相談先として挙がった。

ウ 子どもの発達に関する悩みの内容と、不安や困ったこと

n = 53

悩んだことがある	56.6%
悩んだことはない	43.4%

- ・悩んだことがある人の方が多かった。
- ・年齢は、0歳から今まさに悩んでいるという意見まで様々だった。
- ・言葉が出てこない、コミュニケーションが取れない、吃音、発音等の言語に関する悩みや、対人関係がうまく築けない、出産時や健診時に発達に関する指摘を受けたことがある、同年齢（同月齢）の子どもや育児書の内容と比べて発達が遅い等の悩みが挙げられた。
- ・子どもの将来や子育ての方法、これからどうすれば良いか悩んだという声も多かった。

エ 子どもの発達に関して悩んだ際の相談や支援について

n = 53

相談した/支援を受けた	83.3%
相談しなかった/支援を受けなかった	16.7%

- ・多くの保護者が「相談した/支援を受けた」と回答しているが、一定数「相談しなかった/支援を受けなかった」人がいた。
- ・家族（夫/妻、子どもの祖父母）や友人、学校の先生、保育園の先生等のような身近な人や、ひらぎやことばの教室、教育相談、小児発達外来等の専門機関に相談するケースもあった。

⑤学童クラブ利用保護者

ア 学童クラブを利用して良かったと思うこと

n = 42

開所時間	52.4%	施設の設備・環境	16.7%
開所日	73.8%	施設の立地	52.4%
利用料金	38.1%	活動内容	57.1%
利用できる年齢	40.5%	職員との関係	71.4%
定員・空き状況	9.5%	こども同士の関係	54.8%

- ・学童保育があることで安心して仕事ができる、子どもにとって放課後の居場所があると感謝の感想が多かった。
- ・その他、長期休暇に1日中子どもを見てくれることや、土曜や遅い時間まで開所していることへの感謝の声も多かった。

イ 学童クラブを利用して困っていることや希望

n = 42

開所時間	31.0%	施設の設備・環境	50.0%
開所日	2.4%	施設の立地	4.8%
利用料金	9.5%	活動内容	11.9%
利用できる年齢	14.3%	職員との関係	4.8%
定員・空き状況	31.0%	こども同士の関係	7.1%

- ・通所人数に施設の広さが伴っていない状況を改善してほしい、物理的なスペースが不足しており安全面・衛生面が不安、市が全児童の入所の方針を取っているが施設が拡張されないのだからかなり過密になっている（定員を超えている）、トイレの不足・老朽化を改善してほしい、体育館等の遊び場を確保してほしい等、施設の設備・環境に対する意見が多かった。
- ・平日・長期休暇ともに開所時間の延長を求める事が多かった。

ウ 児童館・児童センターの利用状況

n = 42

利用している	64.3%
利用していない	35.7%

- ・小学校3年生まで利用している児童が多かった、また定期的で開催されるイベントのみ参加する児童もいた。

⑥西東京市立小中学校PTA・保護者の会の保護者

子育ての環境や子どもとの接し方などで、以前（約3年前）と比べて難しくなったと感じること

◆子どもとの接し方について

- ・成長するにつれて反抗的な態度が多くなったり、学校で色々な言葉を覚えてきて家庭での接し方に悩むことが出てきたりする等の意見が挙がった。
- ・スマートフォンやパソコン（SNS等含む）との付き合い方に悩むという声もあった。

◆子どもの周りの環境（学校・友だち・地域など）との関わりについて

- ・地域活動が全くない、連絡網もないので友だちの親が見えない、コロナ禍を経て友だちと学校外で遊ばせるのが難しくなった等、地域や親同士の交流が希薄であることによる難しさが挙げられた。一方で、地域活動が活発で、PTAへの参加を強要されることが苦痛であるという意見もあった。

(3)子ども条例関係質問

①「西東京市子ども条例」について

n = 104

	妊婦	乳幼児 保護者	小・中学生 保護者
聞いたことがあって、条文も読んだことがある	9.4%	5.3%	22.6%
聞いたことがあるが、内容はわからない	28.1%	21.1%	49.1%
知らない（聞いたことがない）	62.5%	73.7%	28.3%

- ・ファミリー学級参加者、乳幼児保護者のほとんどが「西東京市子ども条例」を知らず、聞いたことがなかった。地域子育て支援センターなかまちでは、園長先生が時々保護者向けに「西東京市子ども条例」について話をしている様子だった。
- ・小中学生の保護者は、「西東京市子ども条例」は知っていたが、内容はわからない人が多かった。

②「子ども相談室 ほっとルーム」について

n = 85

	妊婦	小・中学生 保護者
聞いたことがあって、活動内容も知っている	9.4%	41.5%
聞いたことがあるが、活動内容はわからない	34.4%	52.8%
知らない（聞いたことがない）	56.3%	5.7%

2 支援者対象調査

対象	対象者・対象団体・対象施設	ヒアリング実施日	人数
地域福祉コーディネーター	ほっとネット保谷ステーション	12月7日(木)	1人
子ども食堂運営者	全ての団体(28団体)	アンケートにて実施	10人
一時預かり保育事業実施者	実施している全園(公設公営除く)	アンケートにて実施	4人
子育てサークル・ 子育て支援団体	ぞうさん文庫	11月24日(金)	6人
	ちろりん村	12月7日(木)	1人
ファミリー・サポート・センター サポート会員	12月に活動した会員の方	アンケートにて実施	11人
病児・病後児保育事業従事者	ありあ、えくぼ、ぱんだ	アンケートにて実施	8人
おやじの会	市内小・中学校おやじの会連絡会	アンケートにて実施	16人
西東京市多文化共生センター	子ども日本語教室担当スタッフ	アンケートにて実施	16人
ぼくるーむ	不登校経験の高校生・ 大学生含む運営スタッフ	12月15日(金)	5人
放課後カフェ	柳沢中学校	12月19日(火)	7人
児童館・児童センター	ひばりが丘児童センター (委託事業者)	12月19日(火)	2人
合計			87人

(1)共通質問

①子育てで困っている（ように思われる）保護者や、何らかの支援が必要だと感じられる子どもや家庭の状況について

n = 87

学校の授業が理解できていないようだ	39.1%
子どもの居場所が不足していそう	27.6%
学校等に友人がいないようだ	26.4%
発達に遅れや障害があるようだ	26.4%
子どもの意見表明の機会が不足していそう	25.3%
不登校を経験している	20.7%
食事を十分にとれていないようだ	20.7%
保護者が家庭を顧みていないようだ	18.4%
服装や髪が不衛生なことが続いている	18.4%
家庭が地域から孤立しているようだ	11.5%
非行や非行につながる問題行動がある	10.3%
家事や家族の世話を頻繁に行っている	6.9%
特に支援が必要な子どもや保護者とは接したことがない	14.9%

- ・ほとんどの支援者が、子育てで困っている（ように思われる）保護者や、何らかの支援が必要だと感じられる子どもと接したことがあった。特に子ども食堂運営者からは事業の特性上、具体的かつ比較的深刻なように思われる状況の回答が多かった。
- ・多文化共生センターの職員からは、学校の授業が理解できていないようだという意見が多く挙げられた。本人または保護者（特に母親）が日本語を習得できていないこと等が背景にあるようだ。
- ・発達の遅れに関しては様々な支援者から挙げられたが、保護者が認めない（気づいていない）ケースと、保護者がとても心配しているケースと二分された。
- ・望まない妊娠、保護者の親から支援が得られない、離婚による貧困等からの負の連鎖で困り事を抱える保護者や子どもが多い。
- ・中高生と主に接する支援者からは、親の無関心さや多忙さ、知識・スキル不足、また子どもが思春期でコミュニケーションを取るのが難しくなり、非行行動に対応できない、ネグレクトに発展する等の意見が挙げられた。

②支援が必要かもしれないと感じた子どもや家庭への対処や工夫、課題解決のためにつないだ人やサービスの事例について

- ・のどかや学校、教育支援課等に共有する、学校から子ども家庭支援センターにつなぐ、学校の先生から家庭にアプローチしてもらい、子ども食堂の紹介、18歳以上の子どもの居場所（We）を紹介する等、適切な支援機関や学校等に情報を共有し、課題解決を図る例が多かった。
- ・孤立の恐れがある外国人の産後女性に対して買い物同行支援、宿題と一緒に取り組む、ごはんを一緒に食べる等、支援者が同行したり、一緒に取り組んだり想定している支援の範囲を超えて取り組んでいるケースもあった。

③支援が必要かもしれないと感じた子どもや家庭の状況の団体内での情報共有

- ・「いつも共有している」という回答がほとんどだった。

④家庭において安心して子育てができ、子どもがすこやかに育つための環境や支援に必要だと考えること

n = 87

地域における子育て支援の充実	70.1%
子育て支援のネットワークや交流の場所づくり	59.8%
地域における子ども自身の活動の場の充実	50.6%
子どもの教育環境	47.1%
仕事と家庭生活の両立	46.0%
妊娠・出産に対する支援	41.4%
保育サービスの充実	40.2%
要保護児童に対する支援	36.8%
子育てしやすい住居・まちの環境面での充実	28.7%
母親・乳児の健康に対する安心	26.4%
子どもを対象にした犯罪・事故の軽減	23.0%
日本語習得に関する支援 ※多文化共生センターのみ	14.9%
日本文化習得に関する支援 ※多文化共生センターのみ	8.0%

- ・地域における子育て支援の充実が最も多かったが、いずれの支援もとても重要であるという意見が非常に多かった。
- ・孤立しないための居場所、楽しく勉強できる場所、体験できる機会、地域での長期的な関わりによる支援、遊び場の充実等、子どもや保護者の居場所の重要性や必要性を訴える意見が多かった。
- ・子育て支援施設の情報共有・一覧化、市の窓口以外で情報が得られる場所、相談できる場所づくり等、単に支援サービスを実施するだけでなく、その情報を見やすくすることや、相談しやすくすること等が意見として挙げられた。
- ・幼稚園での預かり保育の充実、保育士の負担軽減、保育園の園庭の確保等、未就学児向けの教育・保育施設に関する意見も挙げられた。また、教育・保育施設に限らず、一時預かり保育やファミリー・サポート・センターの拡充と、利用負担（金銭面・手続き面）の軽減等の必要性を訴える意見も挙げられた。
- ・その他、ひとり親家庭の負荷軽減、要保護児童は保護者が壁になることも多く法的な踏み込んだ支援、支援に繋がる機会、家庭訪問等の細やかな支援、児童相談等の人員の確保等、子どもや保護者に必要な支援を届けるための関わり方や体制づくりに関する意見も挙げられた。

⑤活動をより充実させるために、西東京市に協力や支援を求めたいこと

- ・予算や拠点がほしい（いつでも利用できる日を設定したい、空き家を活用ができないか）等、金銭的な支援や安定的な活動場所に対する意見が多く挙がった。公的な補助は細かな報告が求められるので、もう少し使いやすい補助がほしいという意見もあった。また、利用料のかかるサービスは、子育て券等の公費で賄えると良いという意見があった。
- ・高校生に対応している支援者からは、のどかの対応時間を子どもの生活時間にあわせて拡充してほしい等の意見が挙がった。
- ・その他、活動の市民周知の協力、ボランティアだけに頼らない行政支援の充実、スタッフに対する研修の充実、日本語を母語としない人たちへの支援の充実、市内同一事業のルール統一化、地域の人が集まって子育てを応援できるような体制づくり、中高生に対する年齢制限のない支援の拡充、年齢制限にかかることがある、未受診の発達障害児やグレーゾーンの児童が利用できる制度の整備、教育環境の充実、訪問型支援の拡充等、様々な意見が挙がった。

⑥活動をより充実させるために、地域の人たちに協力や支援を求めたいこと

- ・メンバーの高齢化で活動継続が難しく、若い方がボランティアスタッフで来てほしい、気軽に遊びにきて手伝ってほしい等、活動を継続していく上で新しいスタッフを求める声が複数あった。
- ・居場所づくりの意義を知ってほしい、子どもの遊び場や環境への寛容な理解、子どもだから・若者だから等の先入観を持たずに見てほしい等、今の子どもの姿や活動の意義を知ってほしい・理解してほしいという声も多かった。その他、見守りや声掛けを求める声も多かった。

(2)対象者別質問

①地域福祉コーディネーター

ア 活動の中で、子ども・子育てを通じた地域での交流が感じられた事例

- ・市内の推進委員が支援者と相談者を繋いでいる。コロナ禍では孤立している母親に電話をかけるプロジェクトが立ち上がった。

イ 活動の中で対応が難しいと思われた問題や、課題解決の障壁と感じられたこと

- ・困り感が見えづらい保護者に対する予防的な取り組みが少ない。多機関連携やアウトリーチ型の支援が課題という意見が挙がった。
- ・ほっとネットステーションの認知度が低い。関係機関からの紹介が多いが、どの窓口に問い合わせをすればいいかわからない方が直接相談できる場所としても知られてほしい。

②ファミリー・サポート・センター サポート会員

子どもとのふれあいの中で感じたエピソード

- ・名前を呼んでくれたり、成長を感じたりすることに喜びを感じるという意見が多く挙がった。
- ・一方で場面に応じた対応や声掛けに難しさを感じる声も多かった。

③おやじの会

ア 市や地域のサークルなどが主催するイベントや講習への参加条件・イベントに求めること

n = 16

同年代の子どもがいる保護者同士の交流	56.3%
子どもと参加できるかどうか	50.0%
安価かどうか	25.0%
保育付き	18.8%
有識者から知識が得られる	12.5%
悩みや不安を聞いてもらえる	6.3%
無料かどうか	6.3%
ネットで情報が得られるし交流もできるので、参加する必要がない	0.0%
興味がないので、参加したくない	0.0%
その他の理由で参加したくない	6.3%

・保護者との交流や、子どもと一緒に参加ができるかどうかを重視している保護者が多かった。

イ 参加してみたい活動

n = 16

運動に関する活動	50.0%
食育に関する活動	43.8%
文化・芸術に関する活動	43.8%
成長・発達に関すること	37.5%
しつけに関すること	18.8%
その他	6.3%

・自由記述では子どもと経験を共有できるようなイベント、季節を感じられるイベント、子育てに関する悩みを共有できるようなイベント等が挙げられた。

④子ども食堂、ほくるーむ、放課後カフェ、児童センター

ア 子どもと子どもの親との関係性について

n = 29

良好なようだ	34.5%
良くも悪くもないと思われる	27.6%
やや不満を持っているようだ	20.7%
不満を持っているようだ	17.2%

・親子関係は様々だが、支援サービスを利用できている子どもは、保護者自身が支援先まで送迎しているケースも多く、比較的良好的な様子だという意見も多かった。

イ 子どもの家庭での居場所について

n = 27

居心地が良いようだ	33.3%
良くも悪くもないと思われる	29.6%
やや居場所が無いようだ	18.5%
居場所が無く、居心地が悪いようだ	18.5%

- ・親子関係は様々だが、支援サービスを利用できている子どもは、家庭内にも居場所がありそうな子どもが多い様子だという意見も多かった。
- ・高校生になると自力で移動ができることもあり、家や学校での居場所がない子どもが児童館・児童館センターを勉強のために利用しているケースもあるとのことだった。

⑤ファミ・サポ サポート会員、病児・病後児保育事業従事者、おやじの会

子どもをとりまく環境や保護者の考え方などについて、約5年前と比べて変化したと感ずること

n = 51

保護者が忙しくなっている	37.3%
子どもが忙しくなっている	29.4%
生活リズムの崩れている子どもが増えた	19.6%
甘えてくる子どもが増えた	9.8%
保護者からの無理な要求が増えた	9.8%
子どもの健康を気にかけない保護者が増えた	7.8%
生活リズムの崩れている保護者が増えた	5.9%
わがままを言う子どもが増えた	2.0%
特に変わってきたと感ずることはない	13.7%

- ・保護者・子どもともに忙しくなっているという声が多く挙がった。
- ・不登校や発達障害の相談が増え、それらに関する地域住民の活動も増えたが、保護者の中には地域住民活動も行政のサービスだと思っている人も増えているという意見も挙がった。
- ・病児・病後児保育事業者からは、保護者の就労を取り巻く環境について、コロナ禍前よりは休みやすくなったが、仕事が休めないために解熱剤を飲ませて預ける保護者もいる、低年齢児の利用が増えた、病児保育への依存が多い気がする等の意見が挙がった。
- ・おやじの会参加者からは、父親による子育てについて、以前よりも理解や積極的な関わりが見られるようになったとの意見が挙がった。

⑥放課後カフェ・子ども食堂

コロナ禍を経て、利用者や利用方法等で変化したこと

- ・放課後カフェは内容自体の変化はないが、頻度は月4回から2回に減ったとのことだった。各学校で活動状況が異なるので、学校によって変化したことはおそらく違うとのことだった。
- ・子ども食堂は親との参加が増えた、お年寄りが増えた等 場所によって変化は様々だった。またコロナ禍期間はテイクアウトを受け付けていた子ども食堂も多いようだ。

⑦子ども食堂

ア 開始時期・経緯

n = 10

2010年	10.0%
2015年	20.0%
2016年	10.0%
2017年	10.0%
2020年	10.0%
2021年	30.0%
2023年	10.0%

- ・活動開始の経緯は様々だが、もともと子どもの貧困や居場所支援等に関心が高い人が多かった。
- ・コロナ禍の影響で、昼食支援や居場所支援の必要性を感じて開始した人もいた。

イ 活動の対象者・参加の人数

- ・子どもと保護者（年齢制限なし）を対象としているところもあれば、子どものみで保護者は受け入れていないところもあった。
- ・1回あたり30～50人程度の子ども食堂がほとんどだが、1回に90人程度の参加者がいる子ども食堂もある。

ウ 活動内容・方法、活動の頻度

- ・食事と居場所の提供の他、クッキング活動やイベント（レクリエーション）等を行っているところもあった。
- ・ほとんどの子ども食堂が月1回活動しており、一部は月2回活動しているところもあった。

エ 利用する年齢層

n = 10

未就園児	70.0%
未就学児	80.0%
小学生	100.0%
中学生	70.0%
高校生	50.0%
それ以上	50.0%

オ 今後の利用者の予想

n = 10

増えると思う（増やしていく）	70.0%
現状程度で横ばいだと思う	30.0%
減ると思う（減らしていく）	0.0%

カ 対象ではあるが未利用の子どもへの案内など

- ・チラシの掲示やポスティング、SNS 発信、口コミ等が挙げられた。またすでに利用希望者が多いため、利用を制限しているという意見もあった。

(3)子ども条例関係質問

①「西東京市子ども条例」について

n = 80

聞いたことがあって、条文も読んだことがある	52.5%
聞いたことがあるが、内容はわからない	25.0%
知らない（聞いたことがない）	22.5%

- ・利用者はほとんどが「西東京市子ども条例」を知らなかったが、支援者はその多くが知っていた。
- ・おやじの会のメンバーは知らない（聞いたことがない）と回答した人が一定数いた。

②「子ども相談室 ほっとルーム」について

n = 81

聞いたことがあって、条文も読んだことがある	40.7%
聞いたことがあるが、内容はわからない	25.9%
知らない（聞いたことがない）	33.3%

- ・知っている人が多かったが、「西東京市子ども条例」に比べて認知度は高くなかった。

③活動の中で、「子どもの参加」や「子どもの意見表明」に関して、取り組んでいること

n = 87

保護者だけでなく、子どもに話を聞く機会を作っている	40.2%
イベントの企画・運営に子どもを参加させている	36.8%
子どもの声を聞くアンケートを実施している	14.9%
子どもの参加や子どもの意見表明を普及啓発する研修を実施している	13.8%
子どもの参加や子どもの意見表明について周知する資料を掲示・配布している	8.0%

- ・子どものみの参加（保護者同伴なし）であれば活動を通して話を聞いたり、ワークショップを開催している。親子同席の場合は親子の意見が違った時等のフォローに配慮している様子だった。
- ・イベント企画時に子どもが中心になって考えたり、子どもの意見を積極的に取り入れている等の意見もあった。

④「子どもの参加」や「子どもの意見表明」に関する考えについて

- ・全員がとても重要だと思う、どちらかといえば重要だと思うと回答していた。
- ・子ども施策は子どもの声から作るべき、子どもの意見を十分に聞かないことが不登校に繋がる、子どもから学ぶことが多い等の意見が挙げられた。
- ・当番制の活動やスタッフの高齢化もあり、できることに限りがあるとの意見もあった。